

(未定稿)

政策評価に関する統一研修（中央研修）講演概要

平成 23 年 2 月 9 日開催

講演名：評価指標の現状と課題
講師：鳥取大学地域学部教授 小野 達也
講演時間 13 時 30 分～15 時 30 分

講演の概要は以下のとおりであり、事例を交えてのわかりやすい解説が行われた。

1 評価指標の定義、評価方式の解説

2 定量的評価の解説及び問題点

3 指標の作り方

- ・評価指標の設定（と算出）のかんどころである妥当性、信頼性
（事例）学校に P C を導入する事業

4 ロジックモデルの解説

- ・ロジック・モデルのイメージロジック・モデルと評価指標
（ロジック・モデルの例）総務省 政策 5 地域力創造

5 評価指標の妥当性についての喩え話

- ・ ある人が夜道でコンタクトレンズを落としたとして・・・
→ 暗いので街灯のある場所で探した。－ 意味のない指標の喩え

6 わかりにくい指標の例

- ・施策の評価指標として予算等の削減量、削減率のみをあげている場合。
→ 無駄削減計画とかで、削減することのみの場合以外は、ほぼ意味不明か。

7 指標の信頼性

→ 補助情報が必要

(例)

- ・標本調査（各種アンケート）の結果に基づく、〇〇%という指標値・・・誤差の大ききなどがわかる情報がない場合がほとんど
- ・ 「ジョンズ・ホプキンス大学の女子学生の 3 分の 1 は彼女らの教師と結婚する」という「事実」（ハフ「統計でウソをつく法」より）→女子学生は全部で 3 名

8 評価指標の使い方

- ・多くの評価指標は、比べることで明確な意味をもつ。
- ・比べられないものを比べてはいけない
→指標値の時系列の変化を政策間（異なる指標同士で）比べる場合の例
- ・フロー指標とストック指標をそのまま比べてはいけない
→評価指標のフローとストックの解説
- ・等差的に変化する指標と等比的に変化する指標をそのまま比べてはいけない

9 目標値設定と達成度評価

- ・条件1：目標が数値化されて初めて・・・
15府省の実績評価方式による評価で、目標水準が数値化されている割合（総務省「政策評価の点検結果」H22.3より）
→（事例）目標水準を「前年度より上昇・増加・改善」としているもの
- ・条件2：目標値の性格と根拠
目標値の性格及び目標値の設定根拠の解説
- ・条件3 目標達成度の計算
「期末型」の計算及び「期間型」の計算の違いの解説
- ・条件4 目標達成度の評定、カテゴライズ
達成度の判断基準（S, A, B, C）
妙な理屈？→実績は5ポイント増なので、判断基準より、目標について、順調に進捗している・・・
- ・条件5 指標値（の変化）の解釈と分析
アウトカムの改善といっても外部要因等で一概には言えないとの解説

10 評価指標の見せ方

- ・指標と数字の補助情報が不足している場合が多数
- ・そもそも評価指標が何なのか、目標（値）はどれだけなのか、実績値はいくらだったのか、目標達成状況はどうなのか、といった最も基本的な事項がわかりにくい場合も多数

11 評価において、数字でウソをつく法

- ・「嘘には3つある。普通の嘘と、真っ赤な嘘と、統計だ。」
- ・「数字はウソをいわない、しかしウソつきは数字を使う」
- ・評価における、数字のウソの4段階
 - ①ウソのデータをつくる
 - ②データを恣意的に使う
 - ③データを誤って使う
 - ④数字を独り歩きさせる
- ・数字の「ウソ」の影響は甚大である
 - ◇意思決定者や国民に誤った情報を提供する
⇒誤った情報に基づくPDCAサイクルとは？
 - ◇行政内部における「評価とはこのようなもの」
 - ◇国民側における「評価とはこのようなもの」
⇒評価の形骸化、衰退の懸念
- ・数字でウソをつかないために
 - 数字（数量データ）のもつ技術的な限界と、不十分・不適切なデータの取り扱いに起因する問題を峻別することが重要である。
 - 定量的方法は手段であり、目的ではない。したがって、ヘンな数字は使わないほうがよい。（もちろん「出来る限り定量的に・・・」が大前提）
 - 「数を見せろ」と言われるから「数値目標流行」（某行政学の教科書より）では困る！！